

平城宮東北官衙地区の調査

—第592次

1 はじめに

本調査は個人住宅建設にともなう事前発掘調査である。南北2m、東西7mの東区と南北11.8m、東西16.5mのL字状の西区の2カ所の調査区を設定した(図172・173)。調査面積の合計は154㎡。調査期間は2018年2月14日～2月27日である。

本調査地の南東側では、既往の発掘調査で平城宮東面大垣基礎とその東西両雨落溝と想定される遺構を検出している(平城第234-11次調査)。本調査の東区東部は、この調査で検出した東面大垣と西雨落溝の延長上に位置しており、これらの遺構の検出と東面大垣西側の実態解明を主な課題とした。

2 基本層序・検出遺構

東 区

地表から、①表土層(20～30cm)、②灰黄色土(整地土1、約10cm)、③黄褐色土(整地土2、約15cm)、④黄色砂質土(地山)である(調査区東部)。検出作業は、②の上面(標高約71.9m)でおこない、南北溝SD20171を検出した(図174・176)。その後、③の上面(標高約71.8m)まで南北約2m、東西約2.5mの範囲を段下げし、6基の土坑SK20172～20177を検出した(図175)。

南北溝SD20171 調査区中央部で検出した素掘溝。約1.6mにわたって検出した。幅0.6～1.2m、最大深さ約0.4m。瓦類のほか、炭を含む。

土坑SK20172～20177 整地土2上面にて土坑6基を検出した。径は約0.2～0.4m。いずれも組み合わせず性格は不明である。

なお、平城234-11次調査で検出した東面大垣基礎・西雨落溝とこれらの遺構の位置は合致しない。

西 区

現地表下約20cm、標高71.9～72.0m付近で奈良時代の遺構面の有無を確認するため、調査区を設定し、調査区内の7カ所で奈良時代と考えられる面まで掘り下げをおこなった。その結果、調査区北部にて地山面(明褐色土)、調査区中央部にて整地土面(茶褐色土)を確認し、現地

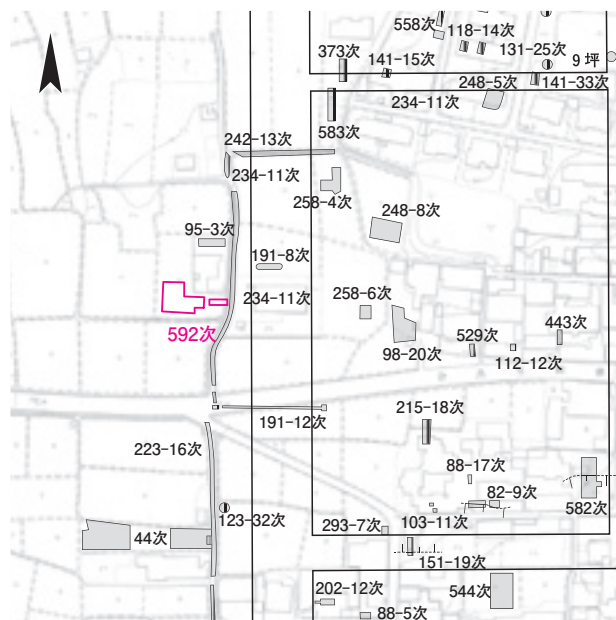


図172 第592次調査区位置図 1:3000

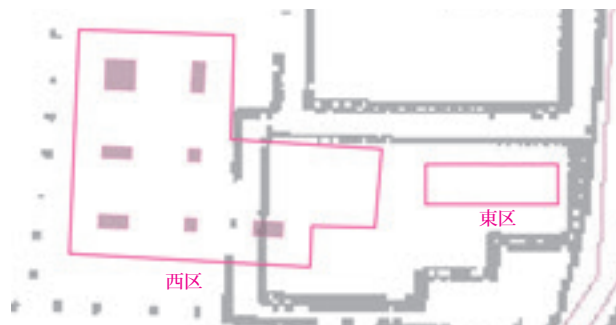


図173 第592次調査東区・西区位置図 1:400

表下約20cmで奈良時代の遺構面が存在している可能性があきらかになった。ただし、いずれの面においても明確な奈良時代の遺構は検出できなかった。調査区東部から南部にかけては床土の広がりを確認した。

3 出土遺物

土 器 類

整理用コンテナ1箱分の土器類が出土した。土器類は表土・整地土のほか、南北溝SD20171から奈良時代の須恵器が少量出土している。ただしいずれも細片で年代を決めることは難しい。(丹羽崇史)

瓦 磚 類

軒丸瓦2点、軒平瓦3点が出土した(表28参照)。このうち、2点が東区表土より、3点が西区整地土面より出土している。いずれも型式・時期等についてまとまりがなく、傾向はあきらかではない。(林 正憲)



図174 第592次調査東区全景（東から）



図175 第592次調査東区土坑SK20172～20177検出状況（北から）

4 まとめ

本調査では、南北溝1条、土坑6基の遺構を確認した。東面大垣と関連遺構は第234-11次調査のほか、東院庭園の調査（第245-2次調査、『平城報告X V』）でも検出している。前者の築地心は調査区北端で $Y = -18,074.6$ で基底部幅約3.2m、西雨落溝の心は $Y = -18,076.8$ で幅約1.3m（『1992年度平城概報』図23による）、後者の築地心は調査区北端で $Y = -18,072.5$ で基底部幅約2.6m、西雨落溝の心は $Y =$

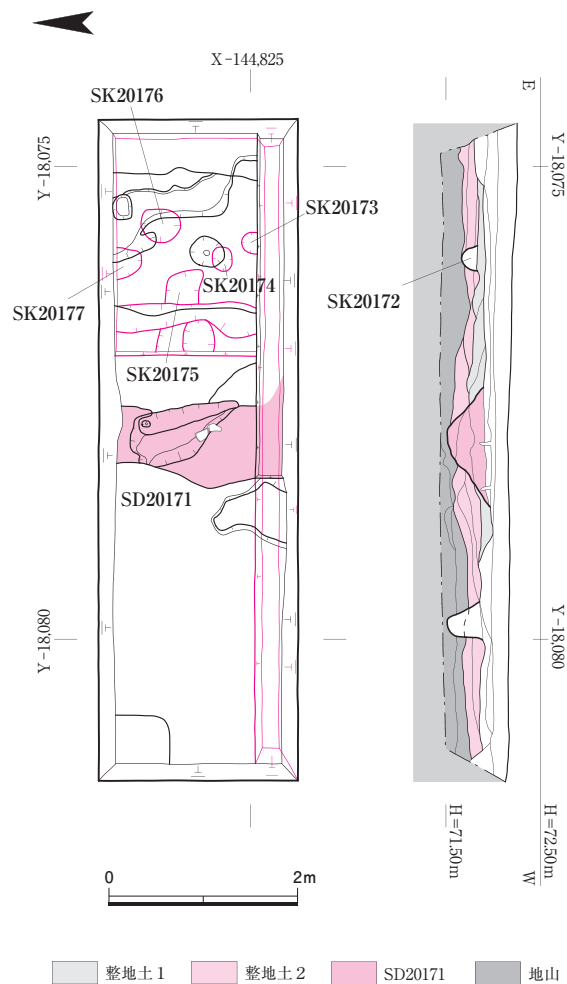


図176 第592次調査遺構図・南壁土層図 1 : 80

表28 第592次調査出土瓦磚類集計表

軒丸瓦			軒平瓦			その他	
型式	種	点数	型式	種	点数	種類	点数
6307	E	1	6664	F	1	平瓦（へら書）	1
6401	A	1		?	1		
			型式不明（奈良）		1		
計		2	計		3	計	1

	丸瓦	平瓦	磚	凝灰岩	レンガ
重量	1.741kg	10.486kg	0	0	0.07kg
点数	29	129	0	0	1

$-18,074.4$ で幅約0.5mである（『平城報告X V』Fig.21による）。本調査で検出した南北溝SD20171の心は $Y = -18,077.8$ 、最大幅1.2mであり、既往の調査の西雨落溝と位置が異なる。また、本調査地北側の第95-3次調査では南北方向の溝2条を検出し、「大垣に附属するものではなく、その内側で平行して造られた排水用施設」と考えている（『昭和50年度平城概報』）。今回確認した南北溝SD20171、土坑SK20172～20177との関係はあきらかではないが、今後の周辺調査に期待したい。（丹羽）